

オレゴン州ポートランドでのインターン シップ～一年を振り返って～

小川 朝輝 さん

◎渡航先：オレゴン州ポートランド

◎派遣校：Mt. Tabor Middle School



私にとって、この一年はこれまでで最も充実した一年となりました。出発前は、この一年はひたすら英語を学び日本語を教えるだけの修行だと覚悟していましたが、実際は自分がイメージしていたものと全く違いました。本紙では、私が担当したマウントテーバー中学校での、自分が出発前に思っていたことと、実際の違いについて述べたいと思います。

まず、私が本プログラムに申し込む際思っていたことは、これまで大学で学んできた「教師」という職にアメリカでなるといことです。毎日授業案を作成し、生徒に教え、時には生徒を叱るのだと覚悟していましたが、ですが、実際は、あくまでインターンとしてメインの先生をサポートすることが主で、実際に授業を行うのは数回程度でした。また、生徒指導も日本のように厳しくなく、まさに教師と友達の間のような立場で接していました。そのため、生徒と話す機会も多く、毎日教室に行くことが楽しみでした。業務内容は主に、宿題プリントの作成、宿題・テスト等の採点、修学旅行の準備です。中学生なので、比較的高度な内容を平易な日本語で表すことが最も難しかったです。

つぎに、今回のプログラムではあまり旅行をするなどの自由な時間が少ないと思っていました。実際は、確かに現地の先生ほど休みはないものの、夏休みは一か月近くあり、連休や、冬休みなど2、3泊の旅行をするためには事欠きませんでした。また、現地の親御さん方が毎月のようにハイキングやパーティを企画してくれ、お金もあまりかからず楽しむことができました。さらに、ホストファミリーによっては、休日に遠方へ旅行に連れて行ってくださることもありました。ポートランドでは夏は、天気が良く乾燥し、非常に過ごしやすいです。それに加え休日も多いので、今思うと夏のうちにもっと旅行しておけばよかったと思っています。

最後に、他のインターンとの関係です。教師として働くと思っていたため、比較的自分の学校・学年内でのコミュニケーションだけが求められると思っていましたが、実際は年間の行事やイベントが多く、インターン全体で集まって準備や練習をする場面が多くありました。特に、週に一度行われるESLのクラスではインターンが一堂に会するため、その場で意見交換をすることができました。

概して、自分が思っていたよりも堅くなく自分がやりたことができました。正直、英語や教師の勉強という意味では、少し趣旨が違う点もありますが、日本語教育やアメリカの文化を知りたい、旅行がしたいと思う人には、うってつけのプログラムであると思います。

